

愛媛県土木部 道路部局

愛媛県の道路 2023



高規格道路

~ミッショングリンクの解消~



「3つのミッショングリンク」の早期解消に向けて

本県における高速道路ネットワークの「3つのミッショングリンク」、「四国8の字ネットワーク」、「今治小松自動車道」、「大洲・八幡浜自動車道」の未整備区間を早期に解消し、国土強靭化や地域経済の活性化、広域交流・連携の基盤となる道路ネットワークを形成するため、高規格道路に努めています。

3 大洲・八幡浜自動車道 約14km



今治小松自動車道 23.3km



今治道路 L=10.3km



H25事業化 H29事業化



今治小松道路 L=3.3km



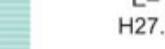
H13事業化 H13.7開通



R5.3.25開通



名坂道路 L=2.3km



H25.3.17開通



八幡浜道路 L=3.8km



夜景道路 L=4.2km



H25事業化



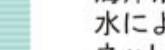
大洲西道路 L=3.3km



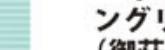
H25事業化



今治小松道路 L=10.3km



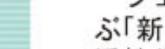
H25事業化



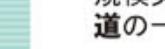
宇和島道路 L=17.5km



H27.3.21開通



津島道路 L=10.3km



H24事業化



宿毛内海道路 L=7.6km

R4事業化

未事業化区間 L=約10km

1. 四国8の字ネットワーク

平成30年7月の西日本豪雨災害の際に、高速道路は被災地の救援や緊急物資の輸送など、「命の道」として重要な役割を果たしました。

また、南トラフ地震発生時に、津波等による深刻な被害が想定されている宇和島以南は、鉄道も無く、海岸沿いの唯一の幹線道路である国道56号が津波浸水により寸断される恐れがあるため、災害に強い道路ネットワークの形成が急務となっています。

そのため、「四国8の字ネットワーク」におけるミッショングリンクの解消に向け、津島道路や宿毛内海道路（御庄～内浦、一本松～宿毛新港）の整備促進や、未着手区间である「御庄～一本松」間の早期事業化に取り組んでいます。

3. 大洲・八幡浜自動車道

フェリー航路を介して四国経由で本州と九州を結ぶ「新たな国土軸」の一翼を担うとともに、地域産業の活性化、観光振興などを支援する「地方創生の道」、大規模災害発生時の「命の道」となる大洲・八幡浜自動車道の一日も早い全線開通に取組んでいます。

1. 愛媛の概要

1 地形と自然

本県は、四国の脊梁山脈に沿って東西約160kmと細長い地形で構成されており、総面積は、6,767km²であり、全国26位の広さを有し、県土の約70%が林野などであります。形状は東予地方が長さ約60km、幅15km、中予と南予が短径約40km、長径120km、幅約40kmの台形を組み合わせた形状で、本土を石鎚山（標高1,982m）をはじめ四国カルスト等の険しい山岳地形となっています。また、瀬戸内海と宇和海には大小200余りの島々が点在し、有数の離島県となっています。

2 人口・文化

本県の人口は、1,301千人であり、その分布は、東予：447千人（34%）、中予：629千人（48%）、南予：224千人（17%）となっています。（R5.2.1 愛媛県推計人口）

令和5年4月1日現在市町村構成されており、主に、東予は工業、中予はサービス業、南予は農林漁業が盛んな土地柄となっています。

3 地質

本県の地質は、県土の長軸方向をほぼ平行に継走する中央構造線・御荷鉢構造線・佛像構造線により4地区に区分され、5つの地質帯で構成されています。

「領家帶、和泉層群、三波川帯、秩父帶、四十万帯」これらは、いずれも風化剥離性の高い脆弱な地質であり、特に本県の大部分を含む三波川帯は、変成、圧縮の影響を受けて複雑な地質構造となり、地滑りや崩壊の多発地帯となっています。このため台風や豪雨等による災害を受けやすくなっています。

3 道路の予算

●道路の予算

本県の道路関係予算は、昨今の厳しい財政状況によって年々減少しており、現在では、ピークであった平成7年度（5分の程度）となっています。

他の府県府に比べて道路整備が進れている本県では、安定的な道路資源の確保と、限られた予算の効率的な活用が必要です。

4 愛媛県の道路の整備方針

●道路の整備方針

1. 道路整備計画の体系

本県の道路整備は、「愛媛の未来づくりプラン（第六次愛媛県長期計画）」をはじめとする各種長期計画に基づき進めています。高規格幹線道路等の広域、高速ネットワーク構築による広域的交通の連携を推進するとともに、生活道路網の整備促進により、県民の皆さん安心で快適な暮らしを支えます。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、次の3本柱を立てて道路整備に取り組みます。

『I』命を守る道づくり

『II』暮らしを支える道づくり

『III』未来を拓く道づくり

また、実施施策を進める上での推進姿勢として、

1. 重点化

2. 効率化

3. 連携・協働

の3項目を設定して、愛顔あふれる愛媛県の未来の道づくりに取り組みます。

このように状況に応じて、様々な分野の有識者が構成する「愛媛県道路懇談会」での議論や、パブリックコメント等で意見を踏まえ、平成28年2月に、今後、概ね10年間の道づくりの方向性を示す「愛媛道ビジョン2016」を策定しました。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

次に、新たに定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

しかし、既に定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

1. 重点化

2. 効率化

3. 連携・協働

の3項目を設定して、道づくりに取り組みます。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

次に、新たに定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

しかし、既に定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

1. 重点化

2. 効率化

3. 連携・協働

の3項目を設定して、道づくりに取り組みます。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

次に、新たに定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

しかし、既に定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

1. 重点化

2. 効率化

3. 連携・協働

の3項目を設定して、道づくりに取り組みます。

この新たな「愛媛 道ビジョン」では、基本方針として、

次に、新たに定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生じています。

しかし、既に定めた10年以上が経過し、東日本大震災を教訓とする大規模災害への備えや、施設の老朽化など、社会情勢の変化を受けた新たな課題が生